様式３

平成31年1月21日

# 平成30年度　結果の分析及び今後の改善策

（　中間・(最終)）

広南中学校区　校番　２　学校名　呉市立広南中学校

| 重点 | d 中期（3年間）経営目標 | e 短期（1年間）経営目標 | l 結果の分析（結果と課題をこう考えます） | m 今後の改善策（案）（こう改善します（案）） |
|---|---|---|---|---|
| ★★★ | （貫）義務教育9年間を見通した学力を育成する | 教師及び生徒の言語能力・ICT活用力の向上 | 「話型」とICTを活用した研究授業をほぼ予定通りに行うことができた。また，授業観察者の評価シートを活用したり，普段の授業で話型やICTの活用を定着させたりしていくことにより，生徒の学習意欲の高まりや教師や生徒の言語能力の向上が見られてきた。しかし，教師の観察や生徒アンケートから生徒の返事や発言の際の声の大きさにはまだ課題があることが分かる。 | 生徒に読む力や書く力などの表現力をつけていくため，毎週金曜日の朝に「ことばの時間」として論語の視写を行う。また，全ての授業で話型の指導を継続していく中で，生徒のつながり発言を定着させていくことや声の大きさ，返事などの指導を徹底させていく。 |
| | | 横断的・総合的なカリキュラムデザインおよび評価の工夫による学びの質の向上 | 教科及び総合的な学習の時間では，実社会から問いを導く挑戦問題を提示することや貫きカリキュラムの単元開発，各教科でのS問題やSルーブリックによる評価によって生徒の意欲と学びの質を向上させている。しかし，「課題解決のための情報収集」と「相手に分かりやすい発表の工夫」については，学年が上がるにつれて増加しているが，昨年度より減少している。さらに，読書習慣の3項目については，いずれも昨年度よりも減少している。 | 貫きカリキュラムをもとに，これまでの実践を改善しながら継続していく。課題解決のための情報収集については，授業での図書室（情報センターとしての図書室の整備を含む）の活用や予習課題などの取組を進めていく。生徒に自分の考えを根拠をもとに説明する場を設定していく。 |
| ★★ | 礼節と挑戦心を身につけ，体力づくりに主体的に取組む生徒を育成する | 生徒の相互指導能力の向上による学校の伝統文化の継承・発展 | 生徒会執行部を中心に行った文化活動発表会など様々な取組に主体的に参加し，成功したことでほぼ100％の生徒が広南中生としての誇りと自信を持ったようである。 | 今年度も大きな行事を成功させることで生徒は成長したと感じられる。今後も持続可能な行事計画を立て，生徒に主体的に取り組ませ，成功したと感じさせることで自己肯定感を高めさせるように取り組んでいきたい。 |
| | | 不登校・低学力等の課題への組織的な対応能力を磨く | ほとんどの生徒が「生活リズムを整えて生活している」が，なかなか食事・睡眠等の基本的生活習慣の確率ができていない生徒もいる。原因としては，メディアに触れる時間の増加や家庭環境の多様化によって「早寝・早起き・朝ご飯」の確立が困難になっていると考えられる。 | アンケートや日々の生活の中で，個別の指導支援が必要である生徒に対しては,アメニティー環境推進委員会を中心に，教職員間で情報交換を行い，指導方針をもとに対応していく。<br>また，保護者に対しては，通信やたより等で生活習慣に関する課題の共有を図っていくとともに，引き続き必要に応じて組織的・継続的に連携を行う。 |
| ★ | （貫）地域に貢献し活力を生み出す学校をつくる | 地域の人材活用及び生徒の地域社会での活躍の場の充実 | 地域の方の専門性を生かしながら，教育活動に関わっていただくことで，地域も学校もやりがいを持てる場を設定した。<br>例えば，2・3年生の総合的な学習の時間「匠の時間」で地域講師（尺八，箏，書道，着付け）を招き，日本文化について，技を習得をしながら学ぶことができた。<br>また，生徒の地域貢献の場として，1年生：落語で皆を笑顔にする地域貢献（ふれあいサロン，老人会等），2年生：起業企画で地域貢献（地域を題材にした商品，売り上げは社会貢献），3年生：創作劇で地域貢献を行った。特に，創作劇においては，作成時において地域の盆踊り指導など，地域の方も積極的に関わりながら創り上げることができた。 | 今後も，地域の方の専門性を生かしながら，教育活動に関わっていただくことで，地域も学校もやりがいを持てる場を設定する。<br>具体的には，総合的な学習の時間を中心に，地域の方とともに創作したり，交流したりする場を設ける。 |
| | | 保護者の学校教育への参画の場つくり | 文化活動発表会における物品・食品バザー，第3回参観日（休日開催）におけるPTCの企画を行い，保護者が，直接，生徒や教職員と関わる場を設定した。具体的には，1，2年生は学級活動として，「本校の良さと課題」について，保護者と小グループをつくり，意見交流を行った。その中で，メディアコントロールについても協議し，PTA会長からも意見をもらった。<br>また，学校だよりを定期的に発行しながら，保護者の活動の様子も発信した。 | 3学期も，PTA新聞による広報などにより，保護者が，直接，生徒や教職員と関わる場を設定する。<br>また，学校においても，引き続き各種たよりを定期的に発行しながら，保護者の学校教育への参画の場づくりを進めていく。 |